

第19回 十勝川中流部川づくり報告会

河川工事の経過について

令和4年3月5日
帯広河川事務所

十勝川中流部川づくりワークショップ 川づくり(案)と整備状況(R3・4月時点)



十勝大橋上流草地復元イメージ図（十勝川左岸 KP56.8-57.7） [平成 25 年度帯広農業高等学校 担当区]

作成：平成 26 年 3 月 15 日
第 4 回十勝川中流域川づくり委員会

第 1 班コンセプト：人と生物とが共存できる場所の形成

私達が考えたセールスポイントとしては、河岸沿いに川からの浸水がある程度防くことを目的に地形の切り盛りを付けた所です。

それと山菜や原生花園を配置したゾーンをレイアウトし、訪れた人々を楽しませることで。

また、草地ゾーンとして背丈の高い草を植え小動物の通り道とすることを考えました。

第 3 班コンセプト：「人が出会う里地」「十勝川花火大会の見やすい丘」

僕たち 3 班の考えは、「人が出会う里地」をテーマに考えました。

その理由は、高水敷には遊歩道、低水敷には車が通れる道路があり、人と人が出会う機会があるためです。

もう一つのセールスポイントは、丘を作り花火大会が見える場所を考えました。

山菜ゾーンとヨモギゾーンを川側にした理由は、水分の供給が受けやすいものと考えました。

その他ゾーンは草花をレイアウトしました。

第 5 班コンセプト：自然に触れ合える空間づくり

5 班は、訪れる人々が山菜や花など、自然に触れ合えることをテーマに考えました。

この場所は十勝大橋が近くにありますので、日陰部分を利用して山菜などが出来たら良いと考えここにレイアウトしました。

第 2 班コンセプト：散策しながら自然の空間を楽しめる草原

僕たち 2 班のセールスポイントは、この場所に 1 本しかないサクラの木です。

この場所は「散策しながら山菜などが取れる憩いの場」となるような場所を考え、サクラの木を中心に広い空間を作り、その周辺を散策できる道路を考えました。

道路の間には山菜やきれいな草花が咲く空間、それと川沿いには自然に生える草花の場所の 3 つの散策コースを作りました。

私達が考えた散策路は、工事で発生した表土を高さ 50 cm 程度の高さのもの、幅 3.0 ~ 3.5m 程度のものを考えています。

第 4 班コンセプト：タンチョウを、十勝大橋を横断させる

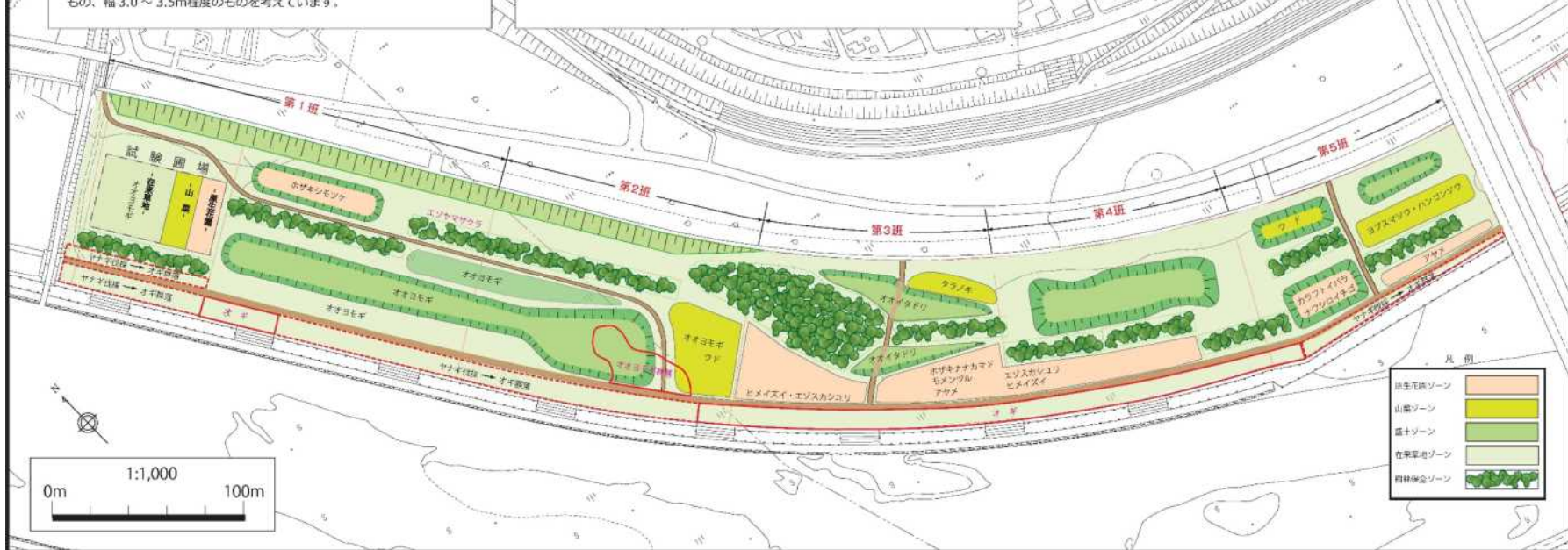
現在タンチョウが飛来している箇所は、相生中島地区まで来ています。

それで私たちはタンチョウを十勝大橋を横断させてこの場所に飛来できる空間を考えました。

タンチョウが飛来する箇所には工事で発生した表土で起伏を作り、その高い部分にデントコーンを置き給餌場になる場所を考えました。

結果、保全する樹木帯以外の場所の殆どが飛来ゾーンです。

また河岸沿いに道路がありますので、その周りには原生花園を植え、景観が良くなるように考えました。



音更川合流点下流草地復元イメージ図(十勝川左岸 KP54.6-55.8) [平成 25 年度帯広工業高等学校 2 年生 担当区]

作成：平成 26 年 3 月 15 日
第 4 回十勝川中流部川づくり報告会

第 1 班コンセプト：工事道路の利活用及び現地の起伏を活かした環境づくり

私達 1 班が考えた平面図は、工事に必要な道路を利活用し散策路または管理用道路の設置を考えました。

この道の沿道にはクサフジを植えチョウ類の生息に配慮しました。もう一つのポイントとしては、地形の起伏の利用と工事で発生した表土等を活用し雨水等が集まり湿地環境の形成を考えました。

この湿地の周りは、湿地環境に適したエゾミソハギ等の草花を植生し原生花園をイメージしました。

その他保全樹木帯を除く箇所は自然草原となります。

質問：湿地の周りに描いた範囲はなんですか？

回答：エゾミソハギの在来種で、湿地環境を好む花です。

第 2 班コンセプト：人間や昆虫や小さな生物が集まれる環境づくり

僕たち 2 班は、人間や昆虫や小さな生物が集まれる環境を目指しました。

虫目線で考えた場合、季節に対応した草花等を植え多くの昆虫などが集まれる環境を作り、人目線で考えた場合には、これらの環境の周りを散策できる通路を考えました。

散策通路は伐採木のチップ舗装で廃棄物の利活用を考えました。また、草丈の低い草による自然草原で、中には季節に対応した山菜等を植え、時には人間が草原の中に入れる環境も考えました。

質問：山菜はどんな山菜ですか？
回答：食べられる山菜、例えばフキノトウ、フキ、ゼンマイ等です。

第 3 班コンセプト：昆虫や野鳥など、多くの生き物が集まる環境づくり

僕たち 3 班は、昆虫や野鳥などの生き物が沢山集まれる環境を目指しました。

その結果、クサフジ、スマシ、また、タンチョウが好む草のヨシなど沢山の種類の草を植えることで生き物の楽園を作ろうではないかと考えました。

その他として、花と花との間に道を作り高齢者の方々や子供たちが通ってきれいだなと感じられる空間を作りたいと思っています。また、山菜の自生する箇所も作りました。

質問：人間が通るためには道の数が少なく、中に入れないのでは？
回答：多くの大自然を作りたく、木を残すことを優先にあえて道の数を少なくしました。

第 4 班コンセプト：四季を感じられる環境づくり

僕たち 4 班は、「四季を感じられる環境づくり」をテーマとして考えました。

春の木と言えば「サクラの木」、夏の樹木と言えば「・・・」、秋の樹木と言えば「カエデ」、冬の樹木と言えば「イチイ」、その中でも僕たちが注目したのは「桜の木」です。

この木をいい感じで鑑賞できる空間を保全樹木帯に「森のトンネル」を考えました。そのトンネルを出た所に広いスペースを設けポイントとし、名付けて「四季折々の出会いゾーン」としました。

質問：「森のトンネル」は何で出来ていますか？
回答：もともとこの箇所に自生している樹木です。

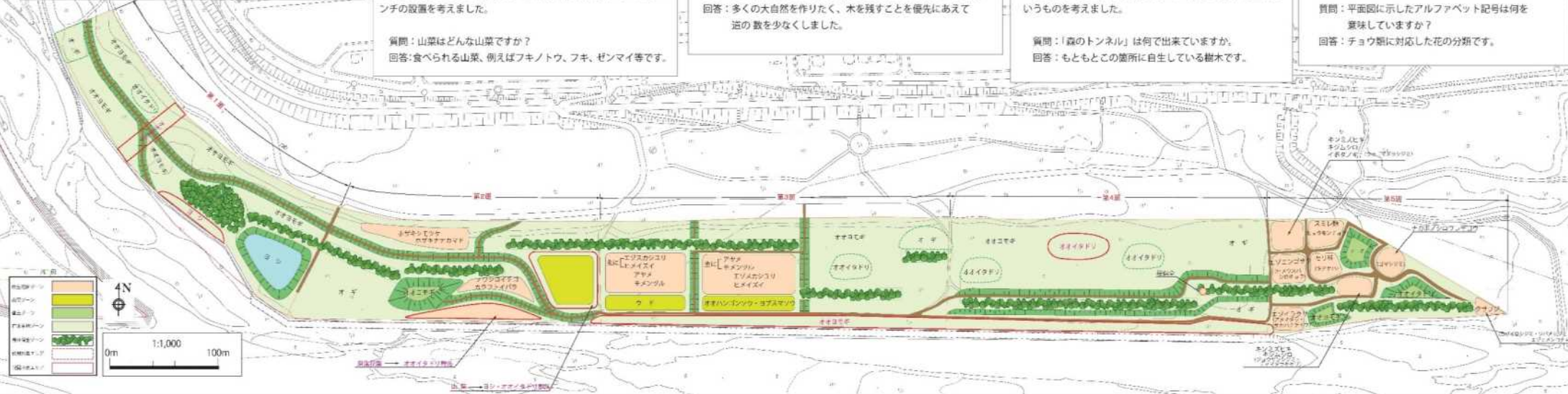
第 5 班コンセプト：多くのチョウ類が生息できる環境づくり

僕たち 5 班は、多くのチョウ類が生息できる環境を目標とし、原生花園をイメージしたレイアウトを考えました。

また、マウンドを設置し地形の起伏を付けました。

質問：マウンドとは、野球とかで使うマウンドのことですか？
回答：工事で発生する産業廃棄物となる表土を利用したもので、地形の起伏をイメージしたものです。

質問：平面図に示したアルファベット記号は何を意味していますか？
回答：チョウ類に対応した花の分類です。



新規存置区画について

H28 出水の影響により存置区画内及びその周辺に倒木、根返りが多く見られたため、過年度設置の存置区画を撤去し、新たに存置区画を設けた。



旧存置区画内の状況



旧存置区画周辺の状況



新規存置区画周辺の保全木一覧

色	No	樹種	直径 (cm)
青	125	マユミ	1
青	126	ニシキギ	1
青	127	マユミ	1
青	128	ハルニレ	13
青	129	マユミ	1
青	130	ヤマグワ	3
青	131	マユミ	1
青	132	ヤマグワ	8
青	133	オニグルミ	21
青	134	ミズキ	10
青	135	ハルニレ	2
青	136	エゾヤマザクラ	3
青	137	ハルニレ	6
青	138	マユミ	3
青	139	エゾノウミズザクラ	5
青	140	エゾノウミズザクラ	8
青	141	オニグルミ	15
青	142	ヤマグワ	10
青	143	ハルニレ	30
青	144	ハルニレ	22
青	145	マユミ	2
青	146	ヤマグワ	4
青	147	ハリギリ	2
青	148	ヤマグワ	2
青	149	エゾニワトコ	2
青	150	ズミ	1



保全木マーキング状況

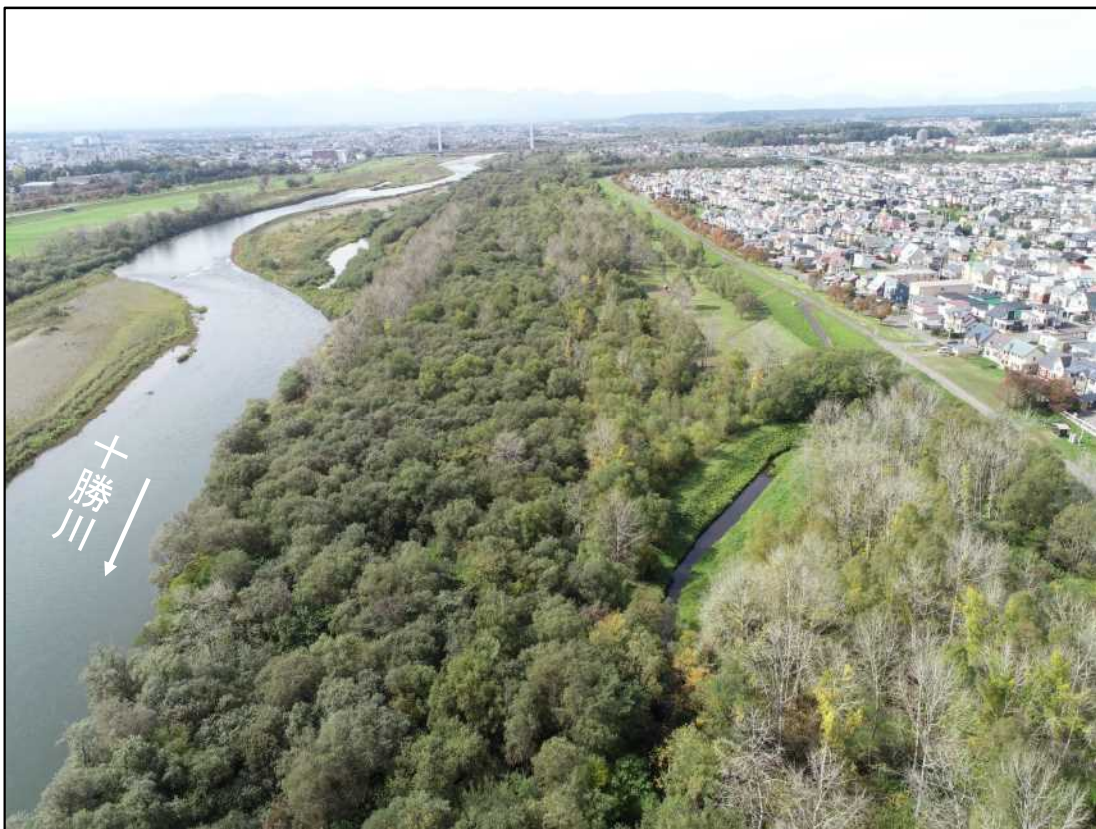


工事実施前 現地確認の様子(10月下旬)



重要種エゾミズタマソウ移植の様子





伐採前(10月7日)



伐採後(2月24日)

十勝川中流部川づくりワークショップ 川づくり(案)と整備状況(R4・3月時点)

